

授 業 概 要

科目名	キャリア教育プログラムⅡ	必修 選択の別	必修	開講 区分	通年	担当 教員	水上 咲紀		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
社会人基礎力を身に付け、社会に対し期待を持てるようになる。									
【学習内容】									
幼稚園で担任業務に従事し、保育に携わっていた教員が現場の実践を交えながら保育者に必要な力を養うための授業を行う。また、セルフワークやグループワーク・リフレクションを行いながら社会人として必要とされる社会人基礎力を養う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
PCやタブレット 実習や就職活動に必要な書類(随時指示します)					業界の研究(HP・就職フェアなど)				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 キャリア教育プログラムⅡの理解 就職活動について				9	【授業単元】 学園祭準備			
	【到達目標】 ・授業の概要を理解する 1年間のスケジュールを理解し、実習・就職活動・内定・卒業に繋げる ・就職活動の流れを理解する					【到達目標】 社会人基礎力「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」を活かし、クラスメイトと学園祭の準備を進める。			
2	【授業単元】 就職活動について 履歴書作成(自己PR、志望動機)				10	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける①			
	【到達目標】 自分自身を理解して履歴書を作成する。					【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
3	【授業単元】 保育実習について、目的とスケジュールを理解する 将来について考える				11	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける②			
	【到達目標】 保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの違いを理解する。 どのような保育士になりたいか。どのような働き方をしたいか考える。					【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
4	【授業単元】 実習の準備をする				12	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける③			
	【到達目標】 実習の目標を設定し、目標を達成するための行動の計画が立てられる。 アルバイトと実習生の違いを理解する。					【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
5	【授業単元】 実習振り返り				13	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける④			
	【到達目標】 実習で体験したことを自分自身の力にすることができる。 実習であった出来事にきちんと向き合い、考えることができる。 次の実習に向けて意欲を高めることができる。					【到達目標】 現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
6	【授業単元】 実習の振り返り 就職活動について				14	【授業単元】 現場で役に立つ知識をつける⑤			
	【到達目標】 実習で体験したことを自分自身の力にすることができる。 実習であった出来事にきちんと向き合い、考えることができる。 実習から就職活動に気持ちを切り替えることができる。					【到達目標】 将来に期待を持ち、現場で役立つ知識・技術を身に付けることができる。			
7	【授業単元】 就職活動について				15	【授業単元】 定期試験			
	【到達目標】 自己理解を深めることができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 中テスト				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
欠席をしないようにしましょう。									

授 業 概 要

科目名	保育原理	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。保育所保育指針における保育の基本について理解する。保育の思想と歴史の変遷について理解する。保育の現場の課題について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識・技術を習得できる授業を行う									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
最新保育原理(第2版) 教育情報出版社					テキストを読み専門用語の意味を理解しておく				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 保育とはなにか 小テスト5点				9	【授業単元】 保育の計画 小テスト5点			
	【到達目標】 保育の基本的な考え方をすることができる。 保育実践					【到達目標】 保育における計画を知り説明することができる。 保育実践			
2	【授業単元】 子どもを取り巻く環境の変化 小テスト5点				10	【授業単元】 保育の評価 小テスト5点			
	【到達目標】 家庭環境・社会環境の変化を知ることができる。 保育実践					【到達目標】 保育の記録と評価を知り説明することができる。 保育実践			
3	【授業単元】 保育の歴史 小テスト5点				11	【授業単元】 家庭援助と子育て支援 小テスト5点			
	【到達目標】 世界の保育思想を知り記述することができる。 保育実践					【到達目標】 子育て支援の背景を知り説明することができる。 保育実践			
4	【授業単元】 保育の歴史 小テスト5点				12	【授業単元】 家庭・小学校との連携 小テスト5点			
	【到達目標】 日本の保育思想を知り記述することができる。 保育実践					【到達目標】 連携の必要性を知り説明することができる。 は保育実践			
5	【授業単元】 保育環境 小テスト5点				13	【授業単元】 子どもの安全 小テスト5点			
	【到達目標】 環境による保育を知り記述することができる 保育実践					【到達目標】 安全能力の形成と保育を知り説明することができる。 保育実践			
6	【授業単元】 保育の内容 小テスト5点				14	【授業単元】 保育の現場と課題 小テスト5点			
	【到達目標】 ねらい、内容、領域の考え方を知り記述することができる 保育実践					【到達目標】 保育所と幼稚園の違いの課題を知り説明することができる。 保育実践			
7	【授業単元】 保育の内容 小テスト5点				15	【授業単元】 保育の現場と課題 定期試験 振り返り			
	【到達目標】 幼稚園教育要領、保育所保育指針の特徴を知り記述することができる。 保育実践					【到達目標】 1～14回までの振り返りを行い保育所と幼稚園の違いを記述することができる。			
8	【授業単元】 保育の方法・形態 中テスト 振り返り				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 1～7回目までの振り返りを行い、保育の内容、方法を記述することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
子どもに関するニュースにアンテナをはり、主体的に課題や発表に取り組むこと									

授業概要

科目名	子ども家庭福祉	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山本 忠篤		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】 現代社会における子ども家庭福祉の意義と、歴史の変遷について理解できる。また、子どもの人権擁護に関しても理解することができる。家庭福祉の制度や実施体系・現状、課題・動向や展望について理解することができる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 担当講師は長年自治体の福祉職として、学童保育、児童館、子育て支援、知的障がい者生活支援に携わり、さらに子育て支援事業の経験も有している。リカレント教育で進学した大学院でも子ども福祉を研究した。そのような経験を生かし、子ども家庭福祉とは何か、またその必要性を感じ取りながら学びとる。									
【使用教科書・教材・参考図書】 新基本保育シリーズ③「子ども家庭福祉」中央法規					【授業時間外における学習】 予習、復習を行うこと。虐待に関しては、自分の考えをしっかりとっておくこと。また、地域における子ども関係の施設、制度に興味をもつようにすること。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 子ども家庭福祉とは 【到達目標】 授業の概要を理解することができる。				9	【授業単元】 母子保健と子どもの健全育成 【到達目標】 母子保健や子どもの健全育成について理解することができる。			
2	【授業単元】 子ども家庭福祉の理念と概念 【到達目標】 子ども家庭福祉の基本について現在の社会的問題や現状を理解できるとともに、児童の最善の利益について説明できる。				10	【授業単元】 多様な保育ニーズへの対応 【到達目標】 保育施設や保育サービスについて理解できるとともに、障害児支援について説明することができる。			
3	【授業単元】 子ども家庭福祉の歴史の変遷 【到達目標】 子ども家庭福祉の成り立ちについて理解することができる。				11	【授業単元】 子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止 【到達目標】 オレンジリボン運動の成り立ちや、子ども虐待防止、ドメスティックバイオレンスについて理解することができる。			
4	【授業単元】 現代社会と子ども家庭福祉 【到達目標】 現代社会における子ども家庭福祉の概略を説明できるとともに、社旗的支援や貧困問題に対して説明することができる。				12	【授業単元】 障害のある子どもへの対応 【到達目標】 障害児の福祉や支援を知るとともに、放課後デイについて理解することができる。			
5	【授業単元】 子どもの人権擁護の歴史の変遷 【到達目標】 子どもの人権擁護についての歴史的な流れを説明できるとともに、人権擁護の課題等を理解することができる。				13	【授業単元】 少年非行と次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 【到達目標】 少年非行の施設と支援を理解することができる。子ども子育て支援制度を知るとともに、幼保連携の考え方を理解することができる。			
6	【授業単元】 子ども家庭福祉の制度と実施体制 【到達目標】 子ども家庭福祉の法制度や行政の実施機関について理解することができる。				14	【授業単元】 子ども家庭福祉の動向と展望 【到達目標】 地域の連携や協働について理解できるとともに、海外の動向についても理解することができる。			
7	【授業単元】 子ども家庭福祉の施設と専門職 【到達目標】 児童福祉施設の種類やそこで働く専門職、措置から契約のことについて理解することができる。				15	【授業単元】 科目まとめ(評価) 【到達目標】 子ども家庭福祉の広い知識が理解することができる。			
8	【授業単元】 少子化」と地域子育て支援 中間評価実施 【到達目標】 少子高齢化についてさまざまな取り組みや子育て支援について理解することができる。 中間評価によって、今までの学びを理解することができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】 保育の領域だけではなく、子どもの福祉全体を考える姿勢が大切である。									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭支援論	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	浴村浩二		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1.家族・家庭の機能と保育所の役割を理解する。 2.「家庭支援」と「子育て支援」を理解する。 3.「社会福祉」と関連付けた家庭支援を説明できる。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
児童福祉を中心に保育士として、社会的養護を必要とする児童や障害児、またその家族などに関わってきた。現在は障害児通所施設の施設長と児童発達支援管理責任者として、療育や個別支援計画の作成だけでなく、保護者へ社会資源の活用や障害に関する制度の説明などもおこなっている。現場で直接支援や相談援助業務に携わってきた経験を活かし、家庭支援と関連付けた授業をおこなう。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる家庭支援論 第2版 (ミネルヴァ書房)					事前学習として教科書各単元や配布資料を読み、熟考したうえで授業に臨む。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンス 家庭支援の対象と役割				9	【授業単元】 社会的養護を要する家庭への支援①			
	【到達目標】 家庭支援を学ぶ目的を理解できる。 家庭支援の理念を5つ理解できる。					【到達目標】 社会的養護を理解する。 社会的養護を必要とする家庭（子どもと保護者）への支援を知る。 事例をもとに討議する。			
2	【授業単元】 子どもと家庭				10	【授業単元】 社会的養護を要する家庭への支援②			
	【到達目標】 家庭と家族の違いを述べることができる。 各時期の子どもにとっての家庭の役割を理解できる。					【到達目標】 社会的養護を理解する。 社会的養護を必要とする家庭（子どもと保護者）への支援を知る。 事例をもとに討議する。			
3	【授業単元】 保育者による家庭支援				11	【授業単元】 家庭支援に関わる法・制度			
	【到達目標】 国家資格としての「保育士」を理解できる。 家庭支援における保育者の姿勢について理解できる。					【到達目標】 子ども・子育てに関わる法を2つ以上説明できる。 子ども・子育てを取り巻く新たな動向を理解し、討議する。			
4	【授業単元】 家庭支援の方法としての保育相談支援				12	【授業単元】 子どもと家庭を支える機関や人①			
	【到達目標】 保育相談支援について説明できる。 保育相談支援の具体的方法について理解できる。					【到達目標】 子どもと家庭を支える機関や仕事を理解できる。 機関の役割を説明できる。			
5	【授業単元】 特別なニーズを有する家庭への支援				13	【授業単元】 子どもと家庭を支える機関や人②			
	【到達目標】 特別なニーズについて理解できる。 ニーズを有する家庭への支援を考え、討議する。					【到達目標】 子どもと家庭を支える機関や仕事を理解できる。 機関の役割を説明できる。			
6	【授業単元】 家庭への個別的な支援①				14	【授業単元】 子どもと家庭を支援する事業			
	【到達目標】 家庭支援の展開を理解できる。 事例（計画）から支援の方法を探る。					【到達目標】 子どもと家庭を支援する事業について1つ取り上げ、説明できる。 語句の整理をおこないながら家庭支援の必要性について自分の考えを述べる。			
7	【授業単元】 家庭への個別的な支援②				15	【授業単元】 授業の振り返り 定期テスト			
	【到達目標】 家庭支援の展開を理解できる。 事例（計画）から支援の方法を探る。					【到達目標】 全体を通して、授業の振り返りをする。 自身の知識の深まりを知る。			
8	【授業単元】 授業の振り返り 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 第1回～第7回までを振り返り、単元の関連性を理解する。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
授業形態は講義が中心となるが、適宜ワークを取り入れていく。問題意識をもって、能動的かつ積極的な姿勢で授業に参加してほしい。									

授 業 概 要

科目名	子ども家庭支援の心理学	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 博一		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の4点を目標とする。①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解すること、②家族・家庭の意識や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得すること、③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解すること、④子どもの精神保健とその課題について理解すること。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもとかかわるために保育士として必要とされる、子どもの心理について理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、保育の心理学における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・子どものさまざまな行動と心理～その1～				9	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その1～			
	【到達目標】 ・本科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・子どもの遊びについて理解し、それが子どもの心の発達にいかにか影響するかということについて説明することができる。					【到達目標】 ・PTSDについて理解し、説明することができる。 ・PTSDに陥った子どもの支援について理解し、説明することができる。			
2	【授業単元】 ・対人援助職者としての保育者				10	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その2～			
	【到達目標】 ・対人援助における想像力について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・保育者として身につけるべきカウンセリングの知識・技法～クライエント中心療法～について理解し、説明することができる。			
3	【授業単元】 ・子どものさまざまな行動と心理～その2～				11	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その3～			
	【到達目標】 ・食べることと心の結びつきについて理解し、説明することができる(その1)。 ・子どもの食の好き嫌いとは保育者としてそのことにかかわるのかについて理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・ドメスティック・バイオレンスについて理解し、説明することができる。 ・幼少期の親子関係が感情の発達に影響を与えることを理解し、説明することができる。			
4	【授業単元】 ・子どものさまざまな行動と心理～その3～				12	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その4～			
	【到達目標】 ・食べることと心の結びつきについて理解し、説明することができる(その2)。 ・摂食障害について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・保育者として身につけるべきカウンセリングの知識・技法～認知行動療法～について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・子どものさまざまな行動と心理～その4～				13	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その5～			
	【到達目標】 ・子ども同士のけんか、それに対する保育士としてのかかわり方について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・自殺の背景要因とその対策について理解し、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・子どものさまざまな行動と心理～その5～				14	【授業単元】 子どもと家庭支援の実際～その6～			
	【到達目標】 ・“キレる”子どもの心理について理解し、説明することができる。 ・“キレる”子どもにかかわるのかについて理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・保育者として身につけるべきカウンセリングの知識・技法～グリーフ・セラピー～について理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・子どものさまざまな行動と心理～その6～				15	【授業単元】 ・1～14回目の振り返り ・定期試験			
	【到達目標】 ・いじめの定義と現状、いじめの対策について理解し、説明することができる。					【到達目標】 ・全14回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・1～7回目の振り返り ・中テスト				【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 毎回の授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を、小テストの合計点とする。小数点以下は切り上げとする。				
	【到達目標】 ・1～7回の振り返りを行い、理解し、確認することができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうにかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	子どもの理解と援助	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	金子いね		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1、子ども一人一人を理解することの意義がわかり、保育における発達援助について捉えることができる。 2、子ども理解のための具体的な内容と方法を理解し、説明できる。 3、子どもの育ちを支えていく保育者の姿勢や態度の基本について考える力を身に付ける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
私立幼稚園で30年以上勤務し、教頭職を経て現在に至る。保育現場では、「遊び」を大事にして子ども理解を深める研修をしてきた教員が、保育現場と学生をつなぎ、子どもを理解することの意義とその方法を実務経験を活かして授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書「子どもの理解と援助」ミネルヴァ書房					授業内容の予習復習として教科書をよく読むこと				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 ガイダンスと「子どもの理解」の意義	【到達目標】 子ども理解を深めるために求められていることが言える。			9	【授業単元】 子どもの育ちと援助	【到達目標】 3歳児、4歳児、5歳児の発達の特徴を捉え、保育者の援助のポイントを説明できる。		
2	【授業単元】 子どもを取り巻く環境	【到達目標】 環境が子どもの発達や学習に及ぼす影響について説明ができる。			10	【授業単元】 遊びの理解と指導計画	【到達目標】 遊びの地図作りを通して、具体的な遊び内容を考えることができる。		
3	【授業単元】 子ども理解における保育者の姿勢	【到達目標】 保育者の姿勢として大事なことを説明できる。			11	【授業単元】 個と集団の育ち	【到達目標】 個と集団の育ち合うために必要なことが言える。		
4	【授業単元】 カウンセリングマインドに基づく子どもの理解	【到達目標】 カウンセリングマインドを身に付ける必要性を説明できる。			12	【授業単元】 特別なニーズのある子どもたち	【到達目標】 一人一人のよさを活かす保育について説明できる。		
5	【授業単元】 保育における観察	【到達目標】 保育の中の観察の意味を説明できる。			13	【授業単元】 保育共同体の構築	【到達目標】 保育者同士の対話的関係構築に必要なことが言える。		
6	【授業単元】 保育における記録	【到達目標】 保育の中の記録する意味を説明できる。			14	【授業単元】 発達の連続性と就学支援	【到達目標】 幼児教育と学校教育の違いを理解し、連携の必要性を説明できる。		
7	【授業単元】 保育カンファレンス	【到達目標】 保育カンファレンスの意味とその方法を述べる。			15	【授業単元】 定期試験 テストの解答説明と「養成校と保育現場の連携」について	【到達目標】 子どもの理解をするための内容や方法を説明することができる。		
8	【授業単元】 中テスト テストの解答説明と「遊び理解」について	【到達目標】 子どもの理解には「遊び理解」が必要なことが説明できる。			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を自分に置き換えて考えて授業に臨むこと。									

授業概要

科目名	子どもの保健	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 こどもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解する。 2 こどもの健康状態の把握とかかりやすい疾患の特徴を理解する。 3 こどもの健康増進や感染防御の具体的方法を理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。その実務経験を活かし、子どもの成長発達の観察、健康上の問題および解決法・支援法について具体的な事例をあげながら授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
はじめて学ぶ子どもの福祉8 子どもの保健 ミネルヴァ書房 保育所保育指針解説 厚生労働省編 フレーベル館 2018年					実習(5~7月)時、子どもの発達段階の特徴や言動を観察する 子どもに関するニュースを集める				
授業計画					コマ 授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 子どもの健康と保健の意義 レッスン1子どもの保健とは レッスン2保健活動の目的・意義と実際	9			【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン16子どもの疾病と保育3 レッスン17子どもの疾病と保育4	【到達目標】 子どもの急性疾患について説明できる。その対応方法を説明できる。 子どもの慢性疾患について説明できる。保育上の注意点を説明できる。 主治医や保護者との連携について述べる事ができる。			
	【到達目標】 子どもの保健を学ぶ意義について述べる事ができる。 ヘルスプロモーションの具体的な例を挙げることができる。 個別の保健活動、集団の保健活動について説明できる。								
2	【授業単元】 第1章 子どもの健康と保健の意義 レッスン3健康の概念と健康の指標 レッスン4地域における保健活動と子どもの虐待防止	10			【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン18子どもの疾病の予防と適切な対応1 レッスン19子どもの疾病の予防と適切な対応2	【到達目標】 個別的な配慮を必要とする子どもへの対応について述べる事ができる。 子どもの疾患を予防する方法について述べる事ができる。			
	【到達目標】 子どもの健康とは何かについて説明できる。 母子保健について、統計から我が国の特徴を説明できる。 子どもの虐待に関する基礎的な知識の学習と保育者に求められることは何かを述べる事ができる。								
3	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン5 生物としてのヒトの成り立ち レッスン6 身体発育と保健	11			【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン20子どもの心身の健康 レッスン21子どもの生活習慣や生活上の問題	【到達目標】 子どもの心の健康について、精神的発達理論や心と体の関係から課題を述べる事ができる。 子どもの心身症の具体的な例について説明できる。			
	【到達目標】 生物としてのヒトの成り立ちについて説明できる。 子どもの身体発育と測定値の見方について説明できる。								
4	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン7生理機能の発達と保健1 レッスン8生理機能の発達と保健2	12			【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン22子どもの発達障害	【到達目標】 主要な発達障害を3つあげ、その特徴を説明できる。			
	【到達目標】 子どもの生理機能、体温・呼吸・循環の測定方法について説明できる。 子どもの生理機能、体温・呼吸・循環の特徴について説明できる。 子どもの生理機能、消化機能・排泄などのしくみ及び特徴について説明できる。								
5	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン9運動機能の発達と保健1 レッスン10運動機能の発達と保健2	13			【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン23発達障害の子どもの支援	【到達目標】 障害に応じた支援について述べる事ができる。			
	【到達目標】 子どもの運動機能の発達の原則及び各発達段階における運動機能の特徴について説明できる。 粗大運動、微細運動の具体的な動きについて説明できる。								
6	【授業単元】 第2章 子どもの発育・発達と保健 レッスン11精神機能の発達と保健1 レッスン12精神機能の発達と保健2	14			【授業単元】 第4章 子どもの精神保健 レッスン24 子ども虐待	【到達目標】 主となる子どもの虐待を4つあげることができる。その具体的な事例をあげることができる。 子ども虐待の発見方法、介入方法、予防方法などを述べる事ができる。			
	【到達目標】 子どもの知的機能の発達について、ピアジェの認知機能の発達理論について説明できる。 乳幼児のこころの発達について、発達段階ごとの特徴を説明できる。								
7	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン13子どもの疾病の特徴 レッスン14子どもの疾病と保育1	15			【授業単元】 前期振り返り 前期定期試験	【到達目標】 子どもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健/子どもの健康状態の把握とかかりやすい疾患の特徴/こどもの健康増進や感染防御、関連機関との連携の在り方についての文章や言葉を正しく選択することができる。			
	【到達目標】 子どもの疾病の特徴を説明できる。 子どもに特徴的な症状について説明できる。 健康状態の把握方法を知り、子どもの不調などを早期発見する意義を説明できる。								
8	【授業単元】 第3章 子どもの疾病と保育 レッスン15子どもの疾病と保育2 中テスト				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 感染症の基礎知識を得て、保育所における感染症対策について説明できる。 幼稚園・保育園で予防すべき感染症、および予防接種について説明できる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む 子どもに関するニュースに関心を持つ									
講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。									

授 業 概 要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	大場 泉
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位
		総時間数	30 時間				
【授業を通じての到達目標】							
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 食育の基本について理解した上で、食育を実践するための企画などを立案できる。特別な配慮が必要な子ども食事について理解できる							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行った経験を有する 基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
新時代の保育双書 「こどもの食と栄養」				授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関することを気をつけ、正しい知識を身につける			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】 子どもにとって健康とは何かを理解する 子どもを取り巻く食環境について理解する			9	【授業単元】 栄養素の働き③ 水溶性ビタミンとミネラル		
	【到達目標】 こどもの食生活の問題点を理解した上で、問題点を解決することができる 中食、外食についての違いについて把握し、中食、外食の問題点を述べ、改善提案をすることができる				【到達目標】 それぞれのビタミンやミネラルの働きについて理解でき、子どもの食事のバランスを整えることができる		
2	【授業単元】 食の安全性について理解する 食品添加物、遺伝子組み換え食品、トランス脂肪酸などやサプリメントについて			10	【授業単元】 栄養素の働き④食物繊維について 8つの基礎食品群 食事バランスガイドについて		
	【到達目標】 食の安全性への正しい知識を持ち、食への不安を持つ保護者へ適切な助言ができるようになる				【到達目標】 今まで学んだ栄養素についてを総合的に理解でき、栄養のバランスをとるためのツールとしての8つの基礎食品、食事バランスガイドの使った食育が行える		
3	【授業単元】 こどもの栄養状態を判定する			11	【授業単元】 食生活指針と日本人の食事摂取基準について		
	【到達目標】 こどもの栄養状態を判定するスケールについて理解し、運用できる 判定スケールを用いて、こどもの栄養状態を判定できる 栄養状態不良者に対して、栄養改善へのアプローチができる				【到達目標】 改訂食生活指針にて、現在の日本人の食生活の問題点について理解できる 食事摂取基準を理解し、それぞれの年代に応じた栄養の必要量について求めることができる		
4	【授業単元】 こどもの消化機能の発達について理解する。 子どもと大人の消化機能の違いについて把握する。			12	【授業単元】 妊娠のメカニズムと出産について 妊娠時のトラブルについて 妊婦の低栄養について		
	【到達目標】 子どもと大人の消化機能の発達の違いを理解し、その違いにより、子どもへの食に対する配慮への対応ができる				【到達目標】 妊娠～出産について学び、-1歳からの子どもについて理解ができる -1歳の時の食事の大切さについて理解できる		
5	【授業単元】 食べ物のゆくえ 消化と吸収について 人は何のために食事をし、栄養素はどのような働きをしているのか			13	【授業単元】 乳汁栄養について理解する		
	【到達目標】 消化・吸収について理解できる 食べ物から入って排泄されるまでの機序を理解できたうえで、子どもに食に対して対応できる				【到達目標】 母乳栄養、人工栄養の違いと特性について理解する 母乳、調製粉乳、液体ミルク、特殊ミルクについて理解でき、乳汁栄養について提案でき、状態によっての使い分けなどの提案ができる		
6	【授業単元】 人体構成を構成している栄養素について 水分の必要性について 脱水について			14	【授業単元】 授乳・離乳の支援ガイドについて		
	【到達目標】 人体を構成している成分について理解でき、人体を健康に維持するためには、どのような栄養素が必要なのかを判断できる 脱水時に適切に対処できる				【到達目標】 授乳離乳の支援ガイドをもとに、妊娠時～離乳の完了までの一連の流れについて理解できる		
7	【授業単元】 栄養素の働き①エネルギー源となる栄養素について (炭水化物、たんぱく質、脂質) それぞれの栄養素の働きについて			15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ		
	【到達目標】 3大栄養素である炭水化物、たんぱく質、脂質について働きについて理解でき、栄養状態を良好に維持するために適切に判断できる				【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度をはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実践にどのように生かすのかを考える		
8	【授業単元】 栄養素の働き② ビタミンについて 脂溶性ビタミンについて 【中間テストの実施】			【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。			
	【到達目標】 それぞれのビタミンの働きについて理解でき、子どもの食事のバランスを整えることができる 中間テストで前期の前半の理解度を図る						
【履修に当たっての心構え・留意点】							
前もって、教科書を読み、栄養素の名前などを予習してから授業に臨むこと。 日常生活の中で、食品に表示されている栄養成分表示などをみて、それぞれの食品には、どのような栄養素がどれくらい含まれているのかを理解すること							

授 業 概 要

科目名	子どもの食と栄養	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	大場 泉		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的な知識が理解できる。子どもの発達、発育とそれぞれの時期に適した食事について理解できる 食育の基本について理解した上で、食育を実践するための企画などを立案できる。特別な配慮が必要な子ども食事について理解できる									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
特別養護老人ホーム、保育園、デイサービスなどの社会福祉法人の複合施設で管理栄養士として、栄養管理を行った経験を有する基本的な栄養学の知識を理解した上で、現場での様々な出来事やイベントなどに対応できるように講義と参加型の演習を通して理解を深める									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新時代の保育双書 「こどもの食と栄養」					授業で学んだことを、実践的にするために、日々の食生活の中で、栄養に関することを気をつけ、正しい知識を身につける				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 離乳食について理解する① 離乳の初期、中期 離乳を開始してよいこども状態 【到達目標】 「授乳・離乳の支援ガイド」をもとに、離乳の各時期における発達とその時期に適した食事形態などを理解でき応用できる。				9	【授業単元】 特別な配慮が必要な子どもの食について① 体調不良時の対応について 【到達目標】 便秘、下痢など子どもに起こりやすい疾病について理解し、対応ができる			
2	【授業単元】 離乳食について理解する② 離乳の後期、完了期 離乳食を行う上で配慮しなければならない食品について理解する ペビーフードについて 【到達目標】 「授乳・離乳の支援ガイド」をもとに、離乳の各時期における発達とその時期に適した食事形態などを理解でき応用できる。				10	【授業単元】 障害など特別な配慮が必要なこどもの食に対して理解する ② 【到達目標】 障害のある子どもへの食に対するアプローチができる 嚥下障害があるこどもの食、視覚障害がある子どもへの食、自閉症があるこどもへの食などを理解し実践できる 嚥下調整食を試食し、嚥下調整食の段階を理解し、現場で適切な食事形態を提案できる			
3	【授業単元】 幼児期の食事について① 幼児期の各時期の食事 幼児における間食の意義について 【到達目標】 食行動の発達とともに各時期に適した食事の内容について理解し、食事内容が適切か判断できる				11	【授業単元】 保育所における食事提供のガイドラインについて理解する① 【到達目標】 保育所における食事提供の意義が理解できる 事例を通して、保育園における「食と健康」の取り組み、「食と人間関係」に関する取り組み、「食と文化」に関する取り組みなどを理解し、実践できる 食品の安全な取り扱いについて理解し実践できる			
4	【授業単元】 幼児期の食事について ② 幼児期に起こりやすいトラブルについて 幼児の献立を作成する 【到達目標】 小児各時期に応じた献立が作成できる。 こどもの食事摂取基準について理解し、運用できる 食生活指針にあわせた食事とは何か理解し、食の企画に生かすことができる 偏食や虫歯など幼児の食に関する問題に対処することができる				12	【授業単元】 保育所における食事提供のガイドラインについて理解する② 【到達目標】 給食と提供するにあたり、食品の安全な取り扱いについて理解できる 食中毒の基本的知識を理解し、安全な食事の提供ができる			
5	【授業単元】 学童期の食生活について 学童期に起こりやすい食の問題点について 【到達目標】 学童期の特有の食事 給食について理解できる 学童期の食の問題点に対応できる				13	【授業単元】 食育について① 【到達目標】 食育基本法について理解し、食育のために必要なアプローチができる 食育を実践できる企画が立案できる 行事食について企画できる 地産地消の大切さを理解し、地産地消の食育について企画する			
6	【授業単元】 アレルギーのある子どもに対して理解する 【到達目標】 アレルギーの種類について理解する アナフィラキシーショック時の対応、エビメンなどの使い方についても理解する アレルギーの指示書について、読み解き、実際の現場で指示書を見た時に、正確に把握できる				14	【授業単元】 食育について② 【到達目標】 食育基本法について理解し、食育のために必要なアプローチができる 食育を実践できる企画が立案できる フードロスなどの問題を食育に取り入れることができる			
7	【授業単元】 児童福祉施設における食事提供のガイドラインについて理解する 【到達目標】 児童福祉施設における食事提供の進め方が理解できる 児童福祉施設における多職種連携についての認識を深める 事例を通して、児童福祉施設における支援について理解でき、これらのことを通して、児童福祉施設における支援の企画、提案ができる				15	【授業単元】 期末テストと振り返り等授業のまとめ 【到達目標】 期末テストで、この授業の習熟度をはかるとともに、この授業で学んだことを振り返り、今後の実践にどのように生かすのかを考える			
8	【授業単元】 児童福祉施設別の食事のあり方について 中間テスト 【到達目標】 後期前半で行った授業内容について理解し、対応できる				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
保育所における食事提供のガイドライン 保育所におけるアレルギー対応のガイドライン 授乳・離乳の支援ガイド 児童福祉施設における食事提供ガイド などは全文を厚生労働省HPよりダウンロードし、一読しておくこと									

授 業 概 要

科目名	保育内容の理解と方法(身体)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保健体育の教員免許を持ち、親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
身体表現あそび(同文書院)					授業で行った運動あそび、手遊び、振り付けは記録しておくこと。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 こどもの運動遊びを理解する 小テスト				9	【授業単元】 親子の運動あそび 小テスト5点			
	【到達目標】 3歳児、4歳児、5歳児の運動の目標と運動遊びのポイントを知ることができる。					【到達目標】 それぞれの年齢に合った親子の運動あそびを調べることができる。			
2	【授業単元】 幼児期に体験した遊びを共有する 小テスト5点 模擬保育				10	【授業単元】 表現を取り入れた運動あそび① 小テスト5点			
	【到達目標】 子どもの頃体験した遊びをまとめることができる。 模擬保育を行うことができる。					【到達目標】 チームを作り運動あそびを企画製作して発表することができる。			
3	【授業単元】 伝承遊びを学ぶ 小テスト5点 模擬保育				11	【授業単元】 表現を取り入れた運動あそび② 小テスト5点			
	【到達目標】 地域に伝わる伝承遊びを調べ発表することができる。 模擬保育を行うことができる。					【到達目標】 運動遊びを企画製作して発表することができる。			
4	【授業単元】 鬼遊びを学ぶ 小テスト5点 模擬保育				12	【授業単元】 表現を取り入れた運動あそび③ 小テスト5点			
	【到達目標】 鬼遊びについて調べ、自分たちで鬼遊びをつくり遊んでみるができる。 模擬保育を行うことができる。					【到達目標】 運動あそびを企画製作して発表することができる。			
5	【授業単元】 リズム遊び①について学ぶ① 小テスト5点 模擬保育				13	【授業単元】 劇遊び① 小テスト5点			
	【到達目標】 楽しく踊ってみることができる。 模擬保育を行うことができる。					【到達目標】 年齢にあった劇遊びを製作することができる。			
6	【授業単元】 リズム遊び② 小テスト5点				14	【授業単元】 劇遊び② 小テスト5点			
	【到達目標】 音楽に合わせた運動をつくるすることができる。					【到達目標】 劇遊びの製作練習をすることができる。			
7	【授業単元】 身体表現について学ぶ① 小テスト5点				15	【授業単元】 定期試験 小テスト5点			
	【到達目標】 各年齢の身体表現を調べることができる。					【到達目標】 劇遊びの発表をすることができる。			
8	【授業単元】 身体表現② 小テスト5点				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 身体表現を発表することができる。 中テスト								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
学校指定のジャージで受講する アクセサリは外しておく									

授 業 概 要

科目名	乳児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井 巴菜
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位
		総時間数	30 時間				
【授業を通じての到達目標】							
3歳未満児までの発育・発達を踏まえた保育について理解する。3歳未満児の子どもの生活や遊びの意義について理解し、保育者として必要な配慮等について考えることができる。保育の計画の重要性を理解し、作成出来る。							
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
幼稚園でクラス担任を3年間務め、現在は幼児保育を専門に指導している教員が授業を担当する。0～3歳未満児の発育・発達について学び、それに合わせた保育の内容・配慮について学んでいく。							
【使用教科書・教材・参考図書】				【授業時間外における学習】			
乳児保育演習ブック・乳児の生活と保育				各授業の復習をする。			
コマ	授業計画			コマ	授業計画		
1	【授業単元】 乳児保育とは	【到達目標】 乳児保育の理念と概念について理解する。 乳児保育の歴史について知る。			9	【授業単元】 指導計画と記録及び自己評価	【到達目標】 長期的・短期的な指導計画と、個別・集団の指導計画の重要性を理解し、作成することができる。
	【到達目標】 乳児保育の理念と概念について理解する。 乳児保育の歴史について知る。					【授業単元】 指導計画と記録及び自己評価	
2	【授業単元】 乳児保育の基礎知識	【到達目標】 発達過程について説明出来るようになる。 また、それに伴った保育者の配慮事項について理解する。			10	【授業単元】 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境1	【到達目標】 環境構成の重要性を理解をする。 人的環境としての保育者としての在り方を考える。
	【到達目標】 発達過程について説明出来るようになる。 また、それに伴った保育者の配慮事項について理解する。					【授業単元】 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境1	
3	【授業単元】 6カ月未満の子どもの育ちと保育内容	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて知り、 それに応じた保育の留意点について理解する。			11	【授業単元】 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境2	【到達目標】 各年齢に適した遊びを知る。
	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて知り、 それに応じた保育の留意点について理解する。					【授業単元】 子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境2	
4	【授業単元】 6カ月以上1歳未満の子どもの育ちと保育内容	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて理解する。 離乳食について理解する。			12	【授業単元】 指導計画と実践	【到達目標】 模擬保育を通して、計画・指導・振り返りを行い、 より実践的なスキルを身に着け、学びを深める。
	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて理解する。 離乳食について理解する。					【授業単元】 指導計画と実践	
5	【授業単元】 1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて理解する。 発達に伴い遊びの広がり、それに伴う留意点について理解する。			13	【授業単元】 指導計画と実践	【到達目標】 模擬保育を通して、計画・指導・振り返りを行い、 より実践的なスキルを身に着け、学びを深める。
	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちについて理解する。 発達に伴い遊びの広がり、それに伴う留意点について理解する。					【授業単元】 指導計画と実践	
6	【授業単元】 2歳以上3歳未満の子どもの育ちと保育内容	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちを理解する。 身体の育ちに合わせた運動・製作等の遊びを考えることができる。			14	【授業単元】 職員間・保護者間・地域との連携	【到達目標】 各方面との連携の重要性を理解し、状況に応じた連携の仕方を考えることができる。
	【到達目標】 身体の育ち・心と言葉の育ちを理解する。 身体の育ちに合わせた運動・製作等の遊びを考えることができる。					【授業単元】 職員間・保護者間・地域との連携	
7	【授業単元】 環境の変化に対する配慮・保育の実際	【到達目標】 環境移行に対する配慮について理解し、説明することができる。 保育の現状について知る。			15	【授業単元】 1回目～14回目までの振り返り	【到達目標】 1回目～14回目までの内容を理解し、ポイントを説明することができる。
	【到達目標】 環境移行に対する配慮について理解し、説明することができる。 保育の現状について知る。					【授業単元】 1回目～14回目までの振り返り	
8	【授業単元】 1回目～7回目までの振り返り・中テスト	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解し、ポイントを説明することができる。			【成績評価の方法と基準】 科目の評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト等40%の配分で総合し、AからFの6段階で評価を行う。 また、試験は筆記試験で行う。 毎回授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(8回目授業で実施)は15点満点とする。その合計の1/2の点数を小テストの合計点とする。その数が整数でない場合は、小数点以下は切上げとする。		
	【到達目標】 1回目～7回目までの内容を理解し、ポイントを説明することができる。						
【履修に当たっての心構え・留意点】							
・“なぜそうなのか”を自ら考える姿勢を持って臨む。							
・授業での学びが現場でどのように活かされるかを想定しながら取り組む。							

授業概要

科目名	子どもの健康と安全	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	土井和美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2 子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する。 3 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて具体的に理解する。 4 母子保健に関する施策や連携する関連機関について理解する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
小児病棟で小児の看護を12年経験し、訪問看護でも小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」を担当してきた教員が授業を行う。子どもの健康で安全な生活を守るための衛生環境及び安全管理、体調不良時の対応を根拠をもって示し、他職種及び家庭との連携について演習を交え授業をする。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
保育者のための 子どもの健康と安全〔改訂版〕 創成社 保育所保育指針解説 厚生労働省編 プレーベル館 2018年					実習(5~7月)で、保育園の保育環境や感染予防・事故予防の取り組みを見てくる				
コマ	授業計画				授業計画				
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1章 保健的観点を踏まえた保育環境と援助 1 子どもの健康と保育の環境 2 個別対応と集団全体の健康および安全管理 【到達目標】 望ましい保育環境とはどういうことかを具体的に述べるができる。 個別対応と集団全体の健康および安全管理について説明できる。				9	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 1 感染症の集団発生の予防 2 感染症発生時と罹患後の対応① 【到達目標】 感染症の集団発生の予防について説明できる。 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。			
2	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 1 衛生管理 2 事故防止と安全管理 【到達目標】 おもな衛生管理の基準を説明できる。 施設内外の衛生管理について説明できる。 保育中に起こり得る事故を5つ以上上げることができる。その予防方法を述べるができる。				10	【授業単元】 第4章 子どものかかりやすい感染症対策 2 感染症発生時と罹患後の対応② 【到達目標】 感染症発生時と罹患後の対応について説明できる。 正しい手洗い方法を演習できる。			
3	【授業単元】 第2章 保育における健康と安全管理 3 危機管理 4 災害への備え 【到達目標】 災害に対しどのような備えが必要か述べるができる。 災害発生時の具体的な対応を述べるができる。 PTSDの特徴と対応方法を述べるができる。				11	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 1 保育における保健的対応の基本的考え方 【到達目標】 子どもの健康観察、発育の評価について説明できる。			
4	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応① 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(発熱・下痢・嘔吐・咳・発疹・腹痛) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。				12	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 2 3歳未満児への対応 【到達目標】 3歳未満児への対応について具体的に説明できる。 子どもの身体測定の方法および留意点について説明できる。			
5	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 1 体調不良や障害が発生した場合の対応② 【到達目標】 子どもの体調不良時の症状を説明できる。(けいれん・脱水・頭痛・鼻汁・鼻閉・熱中症) 体調不良が発生した時の対応を説明できる。 子どもの薬と投薬方法について説明できる。				13	【授業単元】 第5章 保育における保健的対応 3 個別的な配慮が必要な子どもへの対応 4 障害のある子どもへの対応 【到達目標】 個別的な配慮を要する子ども(慢性疾患、アレルギー疾患を持つ子ども)への対応について説明できる。 エピペンの使用方法を説明できる。 障がいのある子どもへの対応について述べるができる。			
6	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 子どもの生活と保健の実際 2. 応急手当① 子どもの事故について、発達・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(切り傷・刺し傷・打撲・骨折・捻挫)				14	【授業単元】 第6章 健康および安全管理の実施体制 1職員間の連携・協働 2保健活動の計画及び評価 3自治体との連携 4関係機関との連携 【到達目標】 子どもの健康および安全を守るために職員間の連携の必要性についての述べるができる。 厚生労働省や自治体が行っている母子保健事業の具体例を説明できる。 子どもの最善の利益のために家庭、専門機関、地域がどのように連携しているか説明できる。			
7	第3章 子どもの体調不良などへの対応 2. 応急手当② 【到達目標】 子どもの事故について、発達・行動と結びつけて述べるができる。 事故・急病発生時の対応について説明できる。(口の中のけが・鼻出血・目のけが・虫刺され・火傷・誤飲・誤嚥) 止血法、包帯法を演習できる。				15	【授業単元】 1~14回振り返り 後期定期テスト 【到達目標】 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助/子どもの体調不良等に対する適切な対応/ 保育所における「アレルギー対応」「感染症対策」「事故防止及び事故発生の対応」の各ガイドラインについて、学習した項目に正しく答えることができる。			
8	【授業単元】 第3章 子どもの体調不良などへの対応 3 一次救命処置 1~8回振り返り 中テスト 【到達目標】 小児の救急蘇生の具体的な方法について説明できる。 AEDの使用方法を説明することができる。 保育の安全な環境の在り方、事故や体調不良が発生した時の対応方法について学習した項目を正しく選択することができる。				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小点数以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む こどもに関するニュースに関心を持つ									

授 業 概 要

科目名	障害児保育Ⅱ	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	土井 和美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業 形態	演習	総単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
1. 障害児保育の理念を理解する。 2. 多様な障害の特性とその障害に応じた援助や配慮について理解する。 3. 特別な配慮を必要とする子どもの具体的援助、家庭支援や関係機関との連携、現状と課題について理解する。									
【学習内容】(実務経験のある教員については、どのような実務経験のある教員がどのような授業を実施するのかも記載する)									
小児病棟で小児の看護、訪問看護で小児の在宅療養を支援し、看護学校では「小児看護」、介護士養成課程では「障害の理解」を担当してきた教員が授業を行う。障害のとらえ方、子どもの発達と障害の特性およびその支援について意見交換しながら授業を進めていく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
よくわかる障害児保育 第2版 ミネルヴァ書房 2019年					事前にテキストの授業範囲を読みキーワードや疑問点を見つけておく。授業後はテキストや授業内の資料を参照し自分なりのまとめを行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション 第1部 障害児保育の概論 I 障害児保育とは何か 【到達目標】 障害のとらえ方の変化について自分の言葉で述べるができる 乳幼児の発達課題と障害特性を関連付けて述べるができる				9	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 肢体不自由児 医療的ケア児 【到達目標】 肢体不自由児の特性を述べるができる。 肢体不自由児の特性を踏まえた支援について述べるができる 医療的ケアの具体的な支援について述べるができる			
	【授業単元】 第2部 障害の特徴と保育の実際 III 知的障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 知的障害児の認知の特徴について述べるができる 知的障害児とのコミュニケーションの工夫について述べるができる。					【授業単元】 第4部支援の技法 X 家族への支援 【到達目標】 親への支援の方法について述べるができる。 きょうだい児のケアについて考えを述べるができる			
2	【授業単元】 IV 自閉症スペクトラム障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 自閉症スペクトラム障害の特性を述べるができる 自閉症スペクトラム障害の特性を踏まえた支援について述べるができる				11	【授業単元】 XI 障害児のアセスメント 【到達目標】 子どもを理解の方法にどのようなものがあるか述べるができる。 それらのアセスメントの特徴を述べるができる。			
	【授業単元】 V 注意欠如・多動性障害の特徴と保育での支援 【到達目標】 注意欠如・多動性障害の特性を述べるができる 注意欠如・多動性障害の特性を踏まえた支援について述べるができる					【授業単元】 XII 発達支援の技法① 【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
3	【授業単元】 VI 学習障害の特徴と保育での支援 発達性協調運動障害 【到達目標】 学習障害の特性を述べるができる。 学習障害の特性を踏まえた支援について述べるができる 発達性協調運動障害の特性について述べるができる				13	【授業単元】 XIII 発達支援の技法② 【到達目標】 多様な障害の特性に応じた具体的な支援方法を調べ、発表することができる。			
	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 視覚障害児 【到達目標】 視覚障害児の特性について述べるができる 視覚障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べるができる					【授業単元】 1～14回の振り返り 【到達目標】 1～14回の授業を振り返り、障害のとらえ方の変化を述べるができる。 障害のとらえ方や制度、障害児保育に関する疑問や課題について述べるができる。			
4	【授業単元】 VII その他の障害の特徴と保育での支援 聴覚・言語障害児 【到達目標】 聴覚・言語障害児の特性について述べるができる 聴覚・言語障害児の特性を踏まえたコミュニケーションの支援について述べるができる				15	【授業単元】 定期テスト 【到達目標】 1～14回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができ			
	【授業単元】 1～7回の振り返り 中テスト 【到達目標】 1～7回に学んだ知識と考察を活かして、提示された文章から適切な表現を選択することができる					【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
事前にテキストを読んで授業に臨む。 こどもに関するニュースや障がいを持つ人に関する情報に関心を持つ。 シラバス上「障害」と表記し、授業では適宜「障がい・障害・しょうがい」を使用する。									

授 業 概 要

科目名	社会的養護Ⅱ		必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	山本 忠篤	
学科 コース	こども保育科 夜間主コース		学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数 30 時間
【授業を通じての到達目標】									
子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について理解できる。施設養護及び家庭養護の実際について理解できる。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解できる。社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術について理解できる。社会的養護における子ども虐待防止と家庭支援について理解できる。									
担当講師は長年自治体の福祉職として、学童保育、児童館、子育て支援、知的障がい者生活支援に携わり、現在では地元の児童養護施設の役員として関わっている。そのような経験を生かし、社会的養護とは何か、またその必要性を感じ取りながら社会的養護Ⅰを基礎に現状を深く学びとる。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
新基本保育シリーズ⑩「社会的養護Ⅱ」中央法規					予習・復習は欠かさずに行うとともに、興味のある施設には積極的に見学をさせていただくなどの行動力が必要です。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 家庭養護の生活特性および実際			
	【到達目標】 社会的養護Ⅰを基礎に、これからの学びを理解することができる。					【到達目標】 家庭養護、里親支援を理解できるようになる。			
2	【授業単元】 子どもの権利擁護				10	【授業単元】 アセスメントと個別支援計画の作成			
	【到達目標】 子どもの権利擁護の基本を理解できるとともに事例をおとした演習ができるようになる。					【到達目標】 個別支援計画を作成できるようになる。			
3	【授業単元】 社会的養護における子どもの理解				11	【授業単元】 記録および自己評価			
	【到達目標】 社会的養護のもとで生活する子どもの家庭的環境や、子ども理解の仕方などを理解することができるようになる。					【到達目標】 自己評価やケースカンファレンスについて理解することができるようになる。			
4	【授業単元】 社会的養護の内容 日常生活支援				12	【授業単元】 社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践			
	【到達目標】 日常生活支援を理解できるとともにアセスメントができるようになる。					【到達目標】 社会的養護における保育士の専門性・実践について理解できるようになる。			
5	【授業単元】 社会的養護の内容 心理的支援				13	【授業単元】 相談援助の知識・技術			
	【到達目標】 心理的支援を理解できるとともに、事例に関して解釈ができるようになる。					【到達目標】 ソーシャルワークやそのプロセスについて理解できるようになる。 エコマップや、ジェノグラムが作成できるようになる。			
6	【授業単元】 社会的養護の内容 自立支援				14	【授業単元】 家庭支援について 社会的養護の課題と展望			
	【到達目標】 子どもの自立と退所後の進路や状況について理解できるようになる。					【到達目標】 支援チームについて知り、社会的用語の今後における課題と展望を理解することができるようになる。			
7	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際 乳児院等				15	【授業単元】 科目まとめ(評価)			
	【到達目標】 乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設における生活特性と実際を理解できるようになる。					【到達目標】 科目の内容について理解できるようになる。			
8	【授業単元】 施設養護の生活特性および実際 障害児施設等 中間評価				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 児童心理治療施設、児童自立施設、障害児施設についての生活特性と実際を理解できるようになる。 中間評価を行う。				講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
社会的養護の分野は児童福祉の中でも重要な領域です。必ず知識を身にかけておきましょう。									

授 業 概 要

科目名	子育て支援	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解すること、②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解すること。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・社会-家族-個人の時代による変化 【到達目標】 ・本科目の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・社会-家族の変遷と個人の心理の変化について理解し、説明することができる。				1	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その7～ 【到達目標】 ・思春期の友人関係・恋愛関係について理解し、説明することができる。 ・自分自身の友人関係・恋愛関係について、振り返り、理解することができる。			
2	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その1～ 【到達目標】 ・社会的孤立について理解し、説明することができる。				2	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その8～ 【到達目標】 ・人の性的発達について理解し、説明することができる。 ・子どもの性的行動と保育者としての対応方法について理解し、説明することができる。			
3	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その2～ 【到達目標】 ・社会的貧困について理解し、説明することができる。				3	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その9～ 【到達目標】 ・性別違和について理解し、説明することができる。 ・子どもの性別違和とその対応方法について理解し、説明することができる。			
4	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その3～ 【到達目標】 ・保育者として働くこととお金の関係について理解し、説明することができる～その1～。				4	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その10～ 【到達目標】 ・ハラスメントの定義と種類について理解し、説明することができる。 ・ハラスメント対策について理解し、説明することができる。			
5	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その4～ 【到達目標】 ・保育者として働くこととお金の関係について理解し、説明することができる～その2～。				5	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その11～ 【到達目標】 ・現代の青年の結婚観について理解し、説明することができる。 ・自らの将来の具体的な生活設計を立てることができ、説明することができる。			
6	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その5～ 【到達目標】 ・保育者として働くこととストレスの関係について理解し、説明することができる。				6	【授業単元】 ・さまざまな相談と支援～その12～ 【到達目標】 ・保育者として相談に応じ、支援するということについて理解し、説明することができる。 ・保育者として、職業人として悩みを抱えた場合の相談先・相談の仕方について理解し、説明することができる。			
7	【授業単元】 ・中テスト 【到達目標】 ・1～6回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。				7	【授業単元】 ・1～14回目の振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全14回目の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。			
8	【授業単元】 ・8～15回目オリエンテーション ・さまざまな相談と支援～その6～ 【到達目標】 ・本科目後半の目標・予定・進め方について理解することができる。 ・人は年代に応じて相談内容も変化していくことを理解し、それについて説明することができる。 ・アイデンティティについて理解し、説明することができる。				【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 毎回の授業の小テストは、各回5点満点とし、中テスト(7回目の授業で実施)は15点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数を、小テストの合計点とする。小数点以下は切り上げとする。				
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	保育実習 I (保育所)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><保育所実習の内容></p> 1. 保育所の役割と機能 (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子ども理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 3. 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 4. 保育の計画、観察、記録 (1) 保育課程と指導計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習 I (施設)	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2.観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3.既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4.保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5.保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
<p><居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容></p> 1.施設の役割と機能 (1)施設の生活と一日の流れ (2)施設の役割と機能 2.子ども理解 (1)子どもの観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助やかかわり 3.養護内容・生活環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた対応 (3)子どもの活動と生活の環境 (4)健康管理、安全対策の理解 4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価 5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅰ-②	必修 選択の別	必修	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
保育所・施設実習の意義・目的、内容を理解し、自らの実習の課題が分かる。 実習保育所・施設における、子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務を守ることができる。 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容が具体的に分かる。 実習事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習への課題・目標が分かる。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1. 保育所実習の意義 (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化						実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1. 施設実習の意義 (1) 実習の目的 (2) 実習の概要 2. 実習の内容と課題の明確化 (1) 実習の内容 (2) 実習の課題 3. 実習に際しての留意事項 (1) 子どもの人権と最善の利益の考慮 (2) プライバシーの保護と守秘義務 (3) 実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録 (1) 実習における計画と実践 (2) 実習における観察、記録及び評価 5. 事後指導における実習の総括と課題の明確化 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化					
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実践演習	必修 選択の別	必修	開講 区分	後期	担当 教員	山本 忠篤		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	2 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
<p>・指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。・これらを踏まえて、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。</p>									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
<p>担当講師は長年自治体の福祉職として、学童保育、児童館、子育て支援、知的障がい者生活支援に携わり、さらに子育て支援事業の経験も有している。リカレント教育で進学した大学院でも子ども福祉を研究した。そのような経験を生かし、児童福祉現場における実践について演習や課題の取り組みを行う。</p>									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
<p style="text-align: center;">参考図書</p> <p>保育・教職実践演習(光生館) 保育・教職実践演習テキストノート(ふくろう出版) ほか</p>					<p>後半の課題の取り組みでは、各自が事前に内容に沿って調べたり、施設を訪問したり、また各自の職場等で聞き取り調査を行うが必要になる。</p>				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1~2	<p>【授業単元】 オリエンテーション(1) 保育士の意義や役割 職務内容 子どもに対する責任、倫理について(2)</p> <p>【到達目標】 ・授業の課題を理解できるようになる。(1) ・保育士の意義や役割 職務内容 子どもに対する責任、倫理について事例をもとにグループ討議を踏まえて内容を理解することができるようになる。(2)</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
3~4	<p>【授業単元】 社会性、対人能力について(3) 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について(4)</p> <p>【到達目標】 ・社会性、対人能力について、グループ討議を踏まえ内容を理解することができるようになる。(3) ・子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携について、グループ討議を踏まえ内容を理解することができるようになる。(4)</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
5~6	<p>【授業単元】 保育や子育て家庭に対する支援の展開について(5) 5領域の教材研究について(6)</p> <p>【到達目標】 ・保育や子育て家庭に対する支援の展開について、グループ討議を踏まえ内容を理解することができるようになる。(5) ・5領域の教材を一つ選び、それによって内容を理解することができるようになる。(6)</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
7~8	<p>【授業単元】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について 1</p> <p>【到達目標】 ・保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について各グループで課題を決めることができるようになる。(7) ・中間評価として、課題に沿って今後の計画を発表することができるようになる。(8)</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
9~10	<p>【授業単元】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について 2</p> <p>【到達目標】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について、問題点の発見を理解することができるようになる。</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
11~12	<p>【授業単元】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について 3</p> <p>【到達目標】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について、内容を整理して展開することができるようになる。</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
13~14	<p>【授業単元】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について 4</p> <p>【到達目標】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について、まとめることができるようになる。</p>					<p>【授業単元】</p> <p>【到達目標】</p>			
15	<p>【授業単元】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について 5</p> <p>【到達目標】 保育に関する現代的課題の分析に基づく探究について、発表することができるようになる</p>					<p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA~Fの6段階で評価する。</p> <p>・試験はグループによる発表形式で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。</p>			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
グループ活動が中心なので各グループで全員が協力しながら授業に参加すること。									

授 業 概 要

科目名	愛着と自立	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①愛着と自立が相互に結びついていることについて理解し、説明することができる。 ②自立支援のさまざまな方法について理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するということを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・愛着について①					【授業単元】			
	【到達目標】 ・本科目の目標・進め方について理解することができる。 ・愛着の基本的なことについて理解し、説明することができる。 ・愛着と自立の関係について理解し、説明することができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 ・愛着について②					【授業単元】			
	【到達目標】 ・反応性愛着障害を持つ児童たちの実際について理解し、説明することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 ・愛着について③					【授業単元】			
	【到達目標】 ・反応性愛着障害について理解し、説明することができる。 ・愛着行動について理解し、説明することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 ・愛着について④					【授業単元】			
	【到達目標】 ・実験を通じた愛着のタイプについて理解し、説明することができる。 ・愛着の再形成について理解し、説明することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 ・自立について①					【授業単元】			
	【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その1～。					【到達目標】			
6	【授業単元】 ・自立について②					【授業単元】			
	【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その2～。					【到達目標】			
7	【授業単元】 ・自立について③					【授業単元】			
	【到達目標】 ・幼児期～成人期の自立困難例を通して、自立とその支援について理解し、説明することができる～その3～。					【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目6点、2回目5点、3回目6点、4回目6点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	赤ちゃんと保護者の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	福井博一		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
次の2点を目標とする。 ①赤ちゃんの心理と保護者の心理それぞれを理解し、説明することができる。 ②保護者の支援を通して赤ちゃんを支援することについて理解し、説明することができる。									
【学習内容】									
公認心理師・臨床心理士・精神保健福祉士として、あらゆる年代の人々の、さまざまな相談に応じてきた講師が、子どもや保護者、また、周囲のスタッフとかわるために必要とされる、相談に応じ、援助するというを理解するための授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
・教科書は特に指定しない。必要に応じて関連資料を配布する。また、適宜、参考文献を紹介する。					授業内容と、実習やアルバイト、さらには、自らの日常生活をつねに結び付けて考えることは、相談援助における立派な授業時間外学習である。				
回	授業計画				回	授業計画			
1	【授業単元】 ・オリエンテーション ・赤ちゃんのさまざまな能力～その1～ 【到達目標】 ・本科目の目標・進め方を理解することができる。 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
2	【授業単元】 ・赤ちゃんのさまざまな能力～その2～ 【到達目標】 ・赤ちゃんのさまざまな能力について理解し、説明することができる～その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
3	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その1～ 【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかに影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
4	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その2～ 【到達目標】 ・保護者の心理が赤ちゃんにいかに影響するかについて理解し、説明することができる～育児不安その2～。					【授業単元】 【到達目標】			
5	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その3～ 【到達目標】 ・児童虐待が疑われる家庭・保護者への支援について理解し、説明することができる。 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その1～。					【授業単元】 【到達目標】			
6	【授業単元】 ・保護者の心理と赤ちゃんへの影響～その4～ 【到達目標】 ・産後うつ病について理解し、説明することができる～その2～。 ・赤ちゃんの出すサインを保護者がいかに読み取るかについて理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
7	【授業単元】 ・保護者の支援を通しての赤ちゃんの支援～技法と事例～ 【到達目標】 ・保育者として必要とされるカウンセリングの知識と方法について理解し、説明することができる。					【授業単元】 【到達目標】			
8	【授業単元】 ・1～7回目振り返り ・定期試験 【到達目標】 ・全7回の振り返りを行い、内容を理解し、確認することができる。					【成績評価の方法と基準】 ・評価は、定期試験60%、毎回授業の小テスト40%の配分で総合する。 その結果、A～Fの6段階で評価する。 ・試験は、筆記試験で行う。 ・毎回の授業の小テストは、7回で合計40点満点となるように点数を配分する。 具体的には、1回目5点、2回目6点、3回目6点、4回目6点、5回目6点、6回目6点、7回目5点とする。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
・つねに保育現場を意識して、子どもや保護者、スタッフとどうかわるかを想定しながら授業に参加してください。									

授 業 概 要

科目名	障害児の心理	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	齋藤清美		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
さまざまな障害についての概要を生理的側面、機能的側面、心理的側面から理解し、それぞれ必要とされる対人援助方を学ぶ。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
障害児の親子教室、心身障害児総合医療療育センターで保育に携わった教員が実践を交えながら基礎的な知識、技術を習得できる授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
育保育所保育指針、配布プリント					気になることも、障害について調べる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 視覚障害児について 小テスト5点				9	【授業単元】			
	【到達目標】 視覚障害の体験をしてまとめ、発表しあい共有する。					【到達目標】			
2	【授業単元】 多様な障害について、障害者の話を聞く 小テスト5点				10	【授業単元】			
	【到達目標】 子どもへの関わり方を知り発表する。					【到達目標】			
3	【授業単元】 障害児を持つ保護者の話を聞く 小テスト5点				11	【授業単元】			
	【到達目標】 子ども、保護者への関わり方を知りまとめる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 障害児施設で働く方の話を聞く 小テスト5点				12	【授業単元】			
	【到達目標】 さまざまな障害のある人への関わり方と保育者としての関わりを知る。					【到達目標】			
5	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃの製作① 小テスト5点				13	【授業単元】			
	【到達目標】 製作したものを発表する。					【到達目標】 説明できる			
6	【授業単元】 障害児が喜ぶおもちゃ② 小テスト5点				14	【授業単元】			
	【到達目標】 製作したものを発表する。					【到達目標】			
7	【授業単元】 障害児の遊びと計画 小テスト10点				15	【授業単元】			
	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 振り返り 定期試験				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満点とし、中テスト(8回目の授業で実施)は15点満点とする。その合計(80点満点)の1/2の点数(小数点以下切り上げ)を小テストの合計点とする。				
	【到達目標】 障害を持っている子どもの活動を発表する事ができる。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									

授 業 概 要

科目名	学研保育トレーニングゼミ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場で必要な専門知識、指導計画(カリキュラム)環境設定を学研の保育雑誌より知識を広げ、保育の専門性を高める ・保育雑誌をもとに保育をイメージし、保育者の役割を明確にする 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
のり・切り貼り台紙／あそびと環境012歳(6月号)／Paprika(春号)／ほいくあつぷ(春号)／シールのえほん/連絡帳/Gakken					<ul style="list-style-type: none"> ・保育の現場ですぐに役立つよう、発達年齢に応じた『遊び』の知識を増やす ・手作りおもちゃの製作やシアターなどの児童文化財を保育雑誌を参考に作る 				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 形・幾何学模様					【授業単元】			
	【到達目標】 ・色の選択と配置を見ながら、のり貼りを楽しむ子どもをイメージし、保育の言葉かけを予測し、実践することができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 0・1・2歳の保育					【授業単元】			
	【到達目標】 ・012歳の興味発達について知り、教材を作成することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 シールでやってみよう かたち					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育現場で使用されている『シールワーク』を製作し、子どもたちへの援助と言葉かけについて予測し、実践することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 持続可能な保育					【授業単元】			
	【到達目標】 ・SDGsにまつわる問題について、子どもにとって無理のないアクションや意識付けのためのアイデアや工夫について考察し、保育実践をイメージすることができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 連絡帳の書き方					【授業単元】			
	【到達目標】 ・環境と子ども達の姿を保育雑誌をもとにイメージすることができる。 保護者に伝える記録についての専門性を高めることができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 子どもの主体性について					【授業単元】			
	【到達目標】 ・「子ども主体」と「人間関係」就職してすぐ、春の保育について考察し、保育者としての心構えを再確認することができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 保育室の環境構成①					【授業単元】			
	【到達目標】 ・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・音環境について考え、視覚支援教材を作成することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 保育室の環境構成②(定期試験)					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・4月の受け入れ時期の保育について知識を深め、保育室の空間デザインづくりをすることができる。・保育者としての専門知識を深め、述べるすることができる。					講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	知育研究	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	土屋多恵子		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> ・学研の総合絵本をもとに、季節にちなんだ遊び・生活について知り、子どもたちの興味を引き出す事柄についての知識を深める ・学研の総合絵本をもとに、環境・言葉・人間関係・表現・健康を通しての子どもの育ちについて知る。さらに、多様性についても考察し、保育をイメージすることができる ・法令に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に関連したおはなしえほんを、保育者の視点で捉えることができる 									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼稚園教諭を経て、幼児教室を主宰。地域の主任児童委員として乳幼児等に携わる教員が、保育現場や地域における子育て支援の実際を交えながら、保育者として必要な知識・技術を修得する授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
総合絵本 はっけん! (4月号)/なんで?(4月号)/できた(9月号)/キッズサイエンス サークスこま/がっけんのかぐえほん(6月号)/学研のおはなしえほん プラボーさん(4月号)/たのしいきりがみあそび /Gakken					学研の総合絵本を手にとり、子どもの視点・保育者の視点に立ち、くりかえし読む				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 学研総合絵本の紹介					【授業単元】			
	【到達目標】 ・保育につながる、子ども達の『やってみよう』を引き出す教材について知り、保育の専門性について述べるができる。					【到達目標】			
2	【授業単元】 きりがみあそび					【授業単元】			
	【到達目標】 ・切り紙遊びを通して、子ども達の形遊びの発展性について考察し、模擬保育することができる。					【到達目標】			
3	【授業単元】 SDGsと保育					【授業単元】			
	【到達目標】 ・SDGsや10の姿を『絵本』を通じて子どもたちに伝えることに興味を持ち、ねらいに沿った『きもちに気づく、伝え合う』お話し絵本の読み聞かせを模擬保育することができる。					【到達目標】			
4	【授業単元】 自分でやりたい気持ちに寄り添う					【授業単元】			
	【到達目標】 ・2歳、3歳の子どもの生活習慣について、保育者としての配慮点を説明することができる。					【到達目標】			
5	【授業単元】 科学絵本／なぜ					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の興味・関心を引き出す教材について研鑽し、なぜにどう応えるのか。応答的関わりについて考察し、述べるができる。					【到達目標】			
6	【授業単元】 みんなで(多様性)を大切に					【授業単元】			
	【到達目標】 ・学研の絵本を通し、保育の上での様々なつながりについて、述べるができる。					【到達目標】			
7	【授業単元】 科学的思考					【授業単元】			
	【到達目標】 ・子ども達の不思議が保育のどこにあるのかを考察する。 ・サーカスこまを用いて、試行錯誤する子どもの気持ちを予測することができる。					【到達目標】			
8	【授業単元】 学研のおはなしえほん(定期試験)					【成績評価の方法と基準】			
	【到達目標】 ・おはなし絵本の読み聞かせを行い、それぞれの保育のしめくりについて考察することができる。					講義全体を100点満点とし、定期試験を60点 小テストの合計を40点の配点とする。 小テストは、(1～6回目)は5点 (7回目)は10点 とする。 両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記・実技試験で行う。			
【履修に当たっての心構え・留意点】									
幼稚園・保育所などで使われている学研の知育教材を実際に授業で使用するにあたり、保育現場ですぐに活かせる教材を丁寧に扱うように心がけること									

授 業 概 要

科目名	こどもとおもちゃ工作	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	関根凌子		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	講義	単位数	1 単位	総時間数	15 時間
【授業を通じての到達目標】									
1子供の心身の発達や子どもを取り巻く環境等を理解した上で子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2造形活動を色々な造形材料を使い、色々な方向から考え応用し実践的に習得する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
幼児から高齢者の造形活動の指導を行い学校教育の経験のある教員が造形活動全般の考え方指導の仕方について示し、紙、布、木、粘土、、また、光などを使った造形活動を実践する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
汚れてもいいエプロン、服等、お道具袋					次回の授業課題のテーマを考えてくる。普段の生活の中で造形材料を探し制作の生活の中で活かし方を考える				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 幼児造形における形を捉える力をあげる1スケッチ 顔 動力についてI 絵画活動について				9	【授業単元】			
	【到達目標】 ・動力について理解出来る。・デッサンの考え方が理解出来る。 ・スケッチから紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
2	【授業単元】 幼児造形における絵画制作 モノ版画 ドライポイント クレヨン版画				10	【授業単元】			
	【到達目標】 版画の原理について理解し、紙などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
3	【授業単元】 幼児造形における色々な遊び方と制作遊び フェルト 布を使った遊び 音のでるおもちゃ				11	【授業単元】			
	【到達目標】 布を使った遊びについて理解出来る。フェルト素材などを使った個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
4	【授業単元】 幼児造形における色々な感触遊び ドロ粘土 紐の結び方				12	【授業単元】			
	【到達目標】 紐結びについて理解し、編み方等を理解する事が出来る。個を活かした作品を制作し提出する事が出来る					【到達目標】			
5	【授業単元】 幼児造形における色々な素材を使った制作 七宝焼き 光遊び 型作り				13	【授業単元】			
	【到達目標】 ・七宝の制作の仕方について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。 ・光の性質が理解でき制作につなげる事が出来る					【到達目標】			
6	【授業単元】 幼児造形における五感を活かした制作 七宝焼きII 木材 木の性質や道具の使い方について				14	【授業単元】			
	【到達目標】 七宝焼きを仕上げる事が出来る。木の性質や道具の使い方を理解し、木材を使った制作の仕方について理解して個を活かした作品を制作し提出する事が出来る。					【到達目標】			
7	【授業単元】 幼児造形における色々な媒体を使った制作遊び 光遊び スケッチブックの作成 定期テストの説明				15	【授業単元】			
	【到達目標】 様々な光や影について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。授業のまとめが出来る。					【到達目標】			
8	【授業単元】 定期テスト 筆記テスト 動力を使った作品の制作の発表				【成績評価の方法と基準】 講義全体を100点満点とし、定期テストを60点、小テストと中テストの合計を40点の配点とし、両者の合計点でA～Fの6段階で評価する。 ・試験は筆記試験で行う。 ・毎回の小テストは各回5点満とし、7回目は10点満点とする。合計40点とする。				
	【到達目標】 紐結び方ごの性質や道具の使い方について理解出来る。動力について理解して個を活かした作品を制作して提出する事が出来る。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
造形活動がしやすく汚れてもいい服装で授業を行う。準備片づけ等周囲と協力しながら自主的に行う									

授 業 概 要

科目名	世界の子どもと保育(国内研修)	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期集中	担当 教員	八巻・百瀬・水上・高田		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
海外の保育・教育や文化、こどもの現状について知り、保育や教育について新たな発見をする。									
日本国内に在住する外国人から、様々な国の保育や教育について学び、日本との共通点や相違点について知る。									
身の回りの観光地や日本文化を外国語(英語)で紹介したり、それを聞いて知識を広める。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
保育や幼児教育について見識のある職員や海外での生活経験をいかして国際理解について造詣のある職員、または海外事情に詳しい講師が学生の興味に合わせて、学習・活動を展開する。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
参考図書「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」					参加する研修(海外・国内)に応じて、事前・事後学習を行う。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 国際理解教育の意義と目的を確認する。				9	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。①活動の理解と準備			
	【到達目標】 国際理解教育の意義と目的を知り、研修に対する意欲を高める。					【到達目標】 グループごとに目的を明確にし、どのようなビデオ作製をするか計画する。			
2	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。①交流の準備				10	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。②活動			
	【到達目標】 留学生とどのような活動をするか計画をたてる。					【到達目標】 現地でのビデオ撮影に取り組む。			
3	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。②交流会				11	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。③活動			
	【到達目標】 留学生と異文化交流を楽しむ。					【到達目標】 現地でのビデオ撮影に取り組む。			
4	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。③交流会				12	【授業単元】 身近な観光地や日本紹介のビデオを作ろう。④活動			
	【到達目標】 留学生と異文化交流を楽しむ。					【到達目標】 ビデオの編集、発表の準備をする。			
5	【授業単元】 日本に在住する外国人や留学生から学ぼう。④まとめと評価				13	【授業単元】 身近な観光地、文化紹介のビデオをお互いに鑑賞し、評価し合う。①			
	【到達目標】 異文化交流を通して気付いたこと、学んだことをまとめる。					【到達目標】 ビデオの発表と他のグループの作品の鑑賞をする。			
6	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。①聴講と活動				14	【授業単元】 身近な観光地、文化紹介のビデオをお互いに鑑賞し、評価し合う。②			
	【到達目標】 海外で保育や幼児教育に携わった方の話を聞き、実情を知る。					【到達目標】 ビデオの発表と他のグループの作品の鑑賞をする。			
7	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。②聴講と活動				15	【授業単元】 研修で学んだ事の振り返りをする。			
	【到達目標】 海外で保育や幼児教育に携わった方の話を聞き、実情を知る。					【到達目標】 国際理解教育の振り返りを行い、レポートにまとめる。			
8	【授業単元】 海外の保育・教育事情を学ぼう。③まとめと評価				【成績評価の方法と基準】 研修内容別に、レポート等の課題が出される。見たことや聞いたこと、学んだこと自分の言葉でしっかりまとめよう。評価は研修への参加の有無(出席)、活動への取り組みの様子、レポート課題の内容による。				
	【到達目標】 講演や活動を通して学んだことを発表する。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
昼間部・夜間主、又は他校の学生との共同学習になることがあるので									
他を受け入れ、理解しようとする努力をしよう。									

授 業 概 要

科目名	世界の子どもと保育(海外研修)	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	後期	担当 教員	八巻・百瀬・水上・高田		
学科 コース	こども保育科夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
福祉先進国の施設や、現地の子ども、学生との交流を通して、日本の福祉・保育の問題点を理解し、国際感覚を身につける。国内で実施する場合においても、国際感覚を豊かにし、多様な視点をもって福祉・保育を考えることができる力を身につける。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
国外での研修、または国内での研修を通して、他国の文化や考え方に触れることができるよう授業を展開していく。									
豊かな国際感覚を身に着けるとともに、保育・福祉の現場経験をもつ職員が、学びと実践がつながるように授業を展開していく。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
各時間の授業内容に合わせて資料を準備する。					予習や復習、資料集めなどを事前に連絡する。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 オリエンテーション				9	【授業単元】 国際教育プログラム⑧			
	【到達目標】 授業のスケジュール、目標、評価方法について理解する。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
2	【授業単元】 国際教育プログラム①				10	【授業単元】 国際教育プログラム⑨			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
3	【授業単元】 国際教育プログラム②				11	【授業単元】 国際教育プログラム⑩			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
4	【授業単元】 国際教育プログラム③				12	【授業単元】 国際教育プログラム⑪			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
5	【授業単元】 国際教育プログラム④				13	【授業単元】 国際教育プログラム⑫			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
6	【授業単元】 国際教育プログラム⑤				14	【授業単元】 国際教育プログラム⑬			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。			
7	【授業単元】 国際教育プログラム⑥				15	【授業単元】 試験			
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。					【到達目標】 これまでの学びを総括し、発表することができる。			
8	【授業単元】 国際教育プログラム⑦				【成績評価の方法と基準】				
	【到達目標】 国際感覚を豊かにし、福祉・保育について幅広い視野をもつことができる。また学びと実践のつながりを考えることができる。				筆記試験・レポートで60点。毎時の小テスト合計40点。 90点-100点 A評価 80点-89点 B評価 70点-79点 C評価 60点-79点 D評価 59点以下 F評価				
【履修に当たっての心構え・留意点】					※出席が70%に満たない場合は、E評価(特別補講を実施)				
○簡単な表現を覚え、話したり、書いたりする。									
○受講者の状況に合わせて、内容や学習の順番が変更されることがある。									

授業概要

科目名	選択音楽 I	必修 選択の別	選択	開講 区分	前期	担当 教員	糸日谷章子、伊藤佳子		
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎力を学び、弾き歌いのできる保育士を養成する。									
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
こどもうた200、続こどものうた200、今までのプリント教材					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」				9	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」を歌唱し曲を覚える。 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の説明を受け、どちらかの曲の右手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
2	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」				10	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」の左手の説明を受け、どちらかの曲の左手を弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲を選択し、楽譜を用意する。 弾き歌いの自由曲を両手で弾けるようにする。			
3	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」				11	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾けるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の右手の説明を受け、右手を弾けるようにする。			
4	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」				12	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 「とけいのうた」と「おぼけなんてないさ」、どちらかの曲を両手で弾きながら歌えるようにする。					【到達目標】 各自、ピアノ曲の自由曲の左手の説明を受け、左手を弾けるようにする。			
5	【授業単元】 弾き歌い「とけいのうた」「おぼけなんてないさ」(1)生活のうたから「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」				13	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 これまでの曲を弾きながら歌えるようにする。 学生の演奏に合わせて、歌う。					【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 各自、ピアノ曲の自由曲を両手で弾けるようにする。			
6	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				14	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 弾き歌いの自由曲を選択し、楽譜を用意する。					【到達目標】 自由曲2曲を、正しいテンポ、リズムで間違えずに弾けるようにする。			
7	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				15	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲			
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、右手を弾けるようにする。					【到達目標】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲 を発表する。			
8	【授業単元】 弾き歌い、自由曲1曲。 ピアノ曲、自由曲1曲				【成績評価の方法と基準】 ・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ること を目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回自授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。 点数配分 小テスト①～④各5点 ⑤10点 ⑥～⑩各5点 ⑪10点 合計(80点満点)の÷2の点数を小テストの合計点とする。 小数点以下は切り上げとする。 定期試験⑬ 60点 最終的に、小テストと定期試験の合計点をA～Fの6段階で評価する。				
	【到達目標】 各自、弾き歌いの自由曲の説明を受け、左手を弾けるようにする。								
【履修に当たっての心構え・留意点】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身に着けるために 毎回の授業を真剣に取り組む、授業時間外にもできる限り練習し、 疑問点はその都度教員に聞き、確実に解決、理解することが望ましい。									

授 業 概 要

科目名	選択音楽Ⅱ	必修 選択の別	選択	開講 区分 授業の 方法	後期	担当 教員	糸日谷章子 伊藤佳子		
学科 コース	こども保育科 夜間コース	学年	2年	授業の 方法	実技	単位数	1 単位	総時間数	30 時間
【授業を通じての到達目標】									
将来の保育現場で必要とされる音楽の基礎を習得し、音楽的表現力をピアノを通して身につける。									
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）									
音楽の専門知識を持った教員が保育士に求められる音楽の基礎力、実践力を養うために授業を行う。									
【使用教科書・教材・参考図書】					【授業時間外における学習】				
こどもうた200、プリント教材					授業で取り組んだ曲および次週小テストで行う曲を各自授業時間外に学校もしくは自宅等のピアノで練習し、いつでも演奏できるよう仕上げる。				
コマ	授業計画				コマ	授業計画			
1	【授業単元】 弾き歌い課題 ①おもちゃのチャチャチャ②アイアイ③バスごっこ の中から1曲 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 選択音楽授業で学習する内容や試験についての説明を受け理解する。 自由曲を選択して楽譜を用意する。				9	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾きながら歌えるようにする。 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。			
	2	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲の説明を受け、右手で弾けるようにする。				10	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲を弾き歌いで発表する。 自由曲・連弾曲を両手で弾けるようにする。		
3		【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 連弾曲を選択して楽譜を用意する。 各自決めた選択課題曲の右手、左手を弾けるようにする。					11	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲・連弾曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。	
	4	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲を右手で弾きながら歌えるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。				12		【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。	
5		【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲の右手の説明を受け弾けるようにする。 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。					13	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。	
	6	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲を両手で弾けるようにする。 自由曲の右手、左手を弾けるようにする。				14		【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで弾けるようにする。 連弾曲は二人で呼吸をそろえ最後まで流れが止まらず弾けるようにする。	
7		【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 自由曲を両手で弾けるようにする。 連弾曲の右手の説明を受け弾けるようにする。					15	【授業単元】 自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 定期テスト「自由曲」「連弾曲」を発表する。	
	8	【授業単元】 弾き歌い課題①②③の中から1曲、自由曲1曲・連弾曲1曲 【到達目標】 各自決めた選択課題曲を最後まで止まらず正しいリズム・テンポで両手で弾けるようにする。 自由曲を両手で弾けるようにする。				【成績評価の方法と基準】			
【履修に当たっての心構え・留意点】 将来の保育現場で必要とされる音楽の実践力を確実に身につけるために 毎回の授業を真剣に取り組む、授業時間外にもできる限り練習し、					・客観的なパフォーマンス評価の手法として、また学生がより明確に自身の課題を知ることを目的として定期試験では、ルーブリック評価を用いる。 ・評価項目は1回目授業時に学生に提示して、共通理解とする。 ・小テストは毎回行うものとする。				
点数配分 小テスト②④⑥⑧⑩⑫各5点 ⑭10点									

授 業 概 要

科目名	保育実習Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わり方の視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育実習の経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
1. 保育所の役割や機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体となって行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 (3) 地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 (1) 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授業概要

科目名	保育実習Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	実習	単位数	2	単位	総時間数	80	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める。 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4.保育士としての自己の課題を明確化する。											
【学習内容】(どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
保育所や児童福祉施設での現場経験のある教員の中から定めた保育実習指導者が、保育所実習先の巡回指導と合わせ、実習中の取り組みについてフィードバックと指導を行うなかで、実践を通して学んだ知識や経験を理論としてまとめる能力の涵養を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習時間以外も実習日誌の記入や実習課題等に取り組むとともに、既習内容を復習し実習に生かしていく姿勢が必要である。					
授業計画											
1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能 2.施設における支援の実際 (1)受容し、共感する態度 (2)個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3)個別支援計画の作成と実践 (4)子どもの家族への支援と対応 (5)多様な専門職との連携 (6)地域社会との連携 3.保育士の多様な業務と職業倫理 4.保育士としての自己課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むとともに、主体的な姿勢でとらむことが求められる。						実習指導者による評価、実習巡回教員による評価、自己評価を換算し、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅱ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切なかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					

授 業 概 要

科目名	保育実習指導Ⅲ	必修 選択の別	必修選択	開講 区分	前期	担当 教員	学科教員				
学科 コース	こども保育科 夜間主コース	学年	2年	授業の 方法	演習	単位数	1	単位	総時間数	30	時間
【授業を通じての到達目標】											
1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。											
【学習内容】 （どのような実務経験・研究経験・教員経験のある教員が、どのような授業を実施するのかを具体的に記載する）											
保育士としての実務経験のある教員が、集団および個別指導にて実習先における事前理解や実習終了後の現場体験を踏まえた総括等、保育実習(保育所)の事前・事後指導のための授業を行う。											
【使用教科書・教材・参考図書】						【授業時間外における学習】					
実習要項・実習日誌 保育士指定科目 各教科書						実習オリエンテーションに参加するとともに、実習先についての事前学習等、実習に向けた各自の学習が必要である。					
授業計画											
実習開始前と実習終了後に下記の内容にて実施する 1.保育実習による総合的な学び (1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 (2)子どもの保育と保護者支援 2.保育実践力の育成 (1)子どもの状態に応じた適切ななかかわり (2)保育の表現技術を生かした保育実践 3.計画と観察、記録、自己評価 (1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4.保育士の専門性と職業倫理 5.事後指導における実習の総括と評価 (1)実習の総括と自己評価 (2)課題の明確化											
【履修に当たっての心構え・留意点】						【成績評価の方法と基準】					
保育士としてふさわしい倫理観・使命感を持ち実習に臨むための心構えを持ち主体的な姿勢でとりくむことが求められる。						実習前試験の結果を踏まえて、A～Eの6段階で評価する。					